

みんなとともに笑顔いっぱい



みんなとともに



先日、保健委員会の子どもが、「校長先生、私たち“保健だより”をつくりました」と、こっそり教えてくれました。「えっ、子どもが?」と一瞬思いましたが、“熱中症予防”について考える、とてもためになる“保健だより”ができました。子どもたちが進んで活動する姿が随所に見られ、うれしい限りです。“子ども版保健だより”を参考に、暑い夏を乗り切ろうと思います。



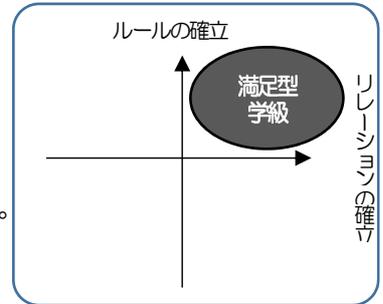
保護者の皆様、1学期間大変お世話になりました。ご支援をいただいていることに心より感謝いたします。

【校長のつぶやき】その5 「“ルール”と“リレーション”の確立」

今年も、3年生と5年生は、「Q-Uテスト」を実施した。このテストは、「① 学校生活における子ども個々の意欲や満足感」や「② 学級集団の状態」を質問紙により測定することができる。

では、②で分かる「よい学級集団」とは、どのような学級集団なのだろう。それは、「“ルール”と“リレーション”が同時に確立している学級」である。

「ルール」	子どもたちの中に内在化されたマナー（行動規範）
「リレーション」	ふれあいのある、本音の感情交流（関係性）（注1）



私は、「ルール」を「父性（きびしさ）」、「リレーション」を「母性（やさしさ）」と読み替えることができると考えている。つまり、「きびしさも、やさしさも両方ある学級」が「よい学級集団」であると言える。（注2）

注1 「ルール」と「リレーション」は、「Q-Uテスト」を考案した早稲田大学 河村茂雄教授の理論による。

注2 「父性」と「母性」は、「性質」「役割」の話である。

しかし、最近思うのだが、これは、「学級」に限ったことだろうか。「本校の学校全体」にも当てはまるだろうし、「本校の教師集団」にも当てはまるだろう。また、「PTA組織」にも当てはまるかもしれないし、「会社組織」にも当てはまるかもしれない。

そして、「家庭」である。

みなさんの「家庭」は、「父性と母性の両方が確立」されているだろうか。

私が育った昭和の時代だったら、頑固親父が「父性」を発揮し、内助の功の母親が「母性」を発揮するという、ある意味、父性と母性のイメージが両立しやすかった時代とも言える。そして、平成も終わろうとしている今…

要は、誰が「父性」を発揮し、誰が「母性」を発揮するかである。

例えば、ある家庭で母親が「父性」を発揮しやすいならば、父親が「母性」の役割を担うことが考えられる。また、一人で子育てをしているのならば、あるときは「父性」を出し、あるときは「母性」を出し、というように、2つの役割を担えばよい。また、祖父母と一緒に住んでいるならば、祖父母、父母の中で、「父性」の役割を担う人、「母性」の役割を担う人を分担すればよい。

1学期、校長は、「くつ箱のかかとをそろえる」とか「廊下を静かに歩く」とか、“ルールの徹底”にこだわってきた。これは、本校では「ルール」の割合を高めた方が「リレーション」とのバランスが取れるのではないかと考えたからである。

夏休みが終わって子どもたちが戻ってきたら、この「ルール（父性）」と「リレーション（母性）」の両方の確立を再度目指していきたい。夏季休業は、そのための作戦を練る機会としたいと思う。

(ちなみに、夏季休業中も教職員は勤務日で、休んでいるときは土曜勤務の週村辰基、夏季休暇、年休等の取得なので、念のため)

